俳風
柳多留
十八編
へ9
1147
18

18

門 へ 9特
號 1147
卷 18

東都歌句合判者連名

蝶々子　苔翁　當時三代。　竹丈　雲皷

白翁　菊丈　收月　一流撰者事保年中壹万八千句集當時三四代目カ

如露　二代讀　嶺松　鹿花坊　感山

一翁　千鶴　圭女　東月

白亀　露九　机鳥　錦江

川柳　宝暦七世年初當卯年迄廿七年、至年全万句弐万安永亥年二万五千余句集柳撰十八篇末猫花初篇後篇出

吳陵軒著

[illegible]ん中でたこうがり
松とゝてすゝ[illegible]月を [illegible]
多くはしいこゝ[illegible]をかゝ[illegible]
本んぶくとゝ[illegible]はしゝこゝ[illegible]
十四日 [illegible]を[illegible]て [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いろ[illegible]が[illegible]地も一首 [illegible]
[illegible]
てんがゝのもゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

美濃郡七日のあぐやうさ
はいとは違ふ
きつねがうどんを喰て
たべきえと思のうたがつひあとをきり
ゐら海苔て仕色にいるを立えん
えきとをきして金をんのにて出ぼん
関をりが見物きて居る中納云
金をんいかるのごとくしてくら
毛を出ばいらいへいが出さいがり

門のわきぶへまをせしらが家老
後の体姿ふうぜて元をとし
さつるを組をしくのかれあれし
業く金沢へ居るはいでがり
ちいさかでも大きなるがも妹
中宿で男をしどかををを
をいををかををせりんぶ行ゆく
れをを行くでんれをををおつをさ

如もとくくおかりる 新ふかわり
酒つりかさ出かし ゆかさんと芸者つんと
四めかけ中の弓のいぬ えんもも
くらいにさうびくいとこと さくさまる
十二日かくと男 祝 うんる
かるくくいへで 梅屋敷えりんしぶ
きつ第 男させばと法れて出る
元ものしかの酒つふ色おかりらさ
えうぬしりて叩つさぬと 夜まる

さたのかぎりいくとどくさくせんぶく
男くく居道は 居ぬ法ハ的さのる 国つさ
きれるうちぶぜ 大石りいきくさん
ぶりらくくくくすんぷん とひ切
ふりうされ男化 一 様さふがり
しら広く 武俵かさ○てふくかりきを
ぐんでしぐぐ 切りて石りて居る
酒け 沙弟 如房 小酒四 毛 参させる
さくさ 祝の法くく 義文 かぶけてら

水川は山しかげ也のいるとも
ちらくのちをうらさたすいとかげ
そざうけるは ちんはくてをうるてる
此方かゝ山でどうけるえ の川
りうらとはたかとかは ちんうせば
ちらこはつぎ後の間ふるまくはへ
ちらくちんの社ふ ゝ もどりつく
かんどうもきん 他人てちにさるる
ちうこうさると切うちうとまうし

かんのんさんへ参つきかんしとまどり
ちうこはりつく念ぶ ちんとゆえ
神はをおうんてみるふうしく
今川ちうどんせんけうさと時うを合
半ういりかうのんて居る小ちあや
おおへいてんさをせゆ ひんうしふ
月見もやんふ 西山をさわすりり
おあんんあてふかの大山くを祈山
地ううをこ当山 山方の光るもかりり

至のわらはをゆし小町ちんて居る
ゆんぐんぐんぐんさんと姫さいぐり
大そかをきめてちゃくそうを所もる
ゆふみさんをたるの旨う海きを制
どうくゆんぐんぐんぐんにくゑ光
すでゆんぐんてあびていそこうへ
こゆゆてゆたるちゃくちゃくちゃくちゃ
なるんすゆの月をるいこし半
ゆすんぐんぐんゆんぐんやゆ

ぐんぐんぐんゆと芋は大きるを
野くるをかるとたいあでゆ海人し
言尾もすうるゆへつゆかいなり
えんてんでゆたるのるすゆ弱を寒る
ちんちうを形めいぐんぐんぐんるる
いせやの年姫のうきとはそうあをよ
小仮ゆゆんぐんぐくもゆんぐんぐんぐんる
すりそうう言年中居を切そしめ
の仮西成ゆ中居を切そしめ
て初葵をのを海うもる

屋をもいてやとしいかづちい二日あば
ゐこ屋こを日ぬとしかぶ浮て出
いよ亟やうぐとと屋へ引りまるぶぎは
八百をふ真ちくゐゐの見てきり
ぶるの赤ちゃ紙とく出てくく之
紙さりてやちのえへぬおちん紙
黄金へ屋かしらつもて屋の〇へ
ものもぶちゃと上中モ引もの生
とゆるとしひいかするが立て居る

ちちちこ海書ちゐちんしてる
ちこ之ぶちのりん章で如屋出る
ちんちへちゃかるを之ぶか
ゆげ紙売ハ舞て来へ
ふひぶを下ゆ出おゆ出ん
れこちしのよかよりぶちり
るとこるがちいこちゐ赤ち
ゆるのをちち矢を抜て初めて居る
ちんぶんちんぶんちんぶんかの（筆は出を

く海岸に所のてらいはうちいりひぢいかに青かちくとまくと米その門えもの門をめーーー

醉ふやうにおぼえて酒をあびるほどのみつづけても身ぬけもせんで何もそんでくふてさつて帰でなかの目をあてうとして寝つがしたれがぢごとたあいらぐと考へたいこれ考えとおもしろくうめのの山いはすちつきふもちぬこ大後をぬくとそぐんの百姓寄りたれ何さ人もゆびとさしてこの者のさいふぬらつひたこをあいはのんでなれば酒ざ叶宿かくはくをもくして通ひ民沖のおをつうちあがさうり設ぶ毎紙をくふかぶ紙つぎをさんをあまでとんは天王奥おあ沼うう馬小沼ちて行りすぐしの小蛇の目と白尺かやで丁ちうどさ用をうをかぐるかり

のてひとりぶらりとてゆきぬ
前すぐえん、ぶやくしておあむし
ぶらりぶらりとぶらぶら歩き
小性ばかりはあるくせるらく死に
そうなるとおもひたりうく
なるなかへい男はしきへてる
記三十二文ばかりてのこるいはひ
白かみくてのこるいはひでいひ
きもちきぶ

義かをいひきんのたまつりか
大三十日ゆ四ゆ行ふ白い白ゆ
かりのきりこ日かりされかすむへ
ふ伝ゆりとさきやいるかりて出る
むなくらいばかりこでいるし
おれらかもかりてとけるふいるさ
かりてもりかれ私りかくんとゆ事
三度ばかりてかりまてれがんだら
おりたゆ中ものの方へさんぶらちて

[illegible]
[illegible]
三人でだりんを押し　ぬりまり
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]
九代目、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

おやさんとちゃくしゅしろへかへしく
しんざんふされてくださるでき
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　大三十日
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぜさの中ゟ三人ふたり二人ふたり
ゟ四人しの船ゟ八人ゟ船に乗るものも
乗くすりやさん船に乗るを見て
かくもとりてとりものの中ゟ四ツ
船ごとに乗こむ乗こむ大一艘
田中ゟ乗られて居る首領ゟ
四ツ時ゟ四ツ時ゟ四ツ時ゟ
勝浦ゟ出帆 安房国ゟ
浦ゟ三ツのゟ浦ゟ神之浦

十月 ぜさの中ゟ三人の中で多く
多ク四のゟ乗り之事ゟ
乗ゟ乗さ乗こむ乗こむ
風まちのゟ船と中ゟ二日引
江の浦へ逃ゟ船ゟ三人
人ぜんを乗せかの八ツ時ゟ
乗こむ乗こむ乗こむ
乗こむ乗こむ乗こむ
乗こむ乗こむ乗こむ
乗こむ乗こむ乗こむ

いつ〳〵とふるいろ〳〵見とゝのゆ
ゑゑの〳〵とゝのゆ　所　かゝて
四しでおこゝとおふ〳〵ゑゝいろ〳〵のうり
すらが丁　こゝをたゝ〳〵すゆ　たる
うゑゝのゑ　すゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
さゆ〳〵ゑゝぐきゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆいやと二つ〳〵川がゆき
ゆつはしのおゝぶんでゆがゆ
人の名ゆゆを九十九首ゆ〳〵このせ
ゆ〳〵ゆを　ゆる　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

時かまはず　こがらしげまぜ野
うちふるとも　嫁やはとうしん如し
ままのまくちふ　ことさきぐち　俗なり
を俗おしの　ちう失で　嫁ハ　おちされ
羽織　ちゑのぐ　俗　ぬんぐ　ですい　有る
多とちぎ　ことを　やうて　こさがり
つぐる　俗の　うで　だてを　ちちなり
ぶてふ　目ハ　二ひ　ぬと　小十　郎
こまんの　ぶいこ　ぶりい　ぶいさ

ちゑ　おく　こまが　きたのつはちぐめ
麦ちぐ　ぶく　ちの　ちる　堀江丁
俗ちゑ　ぶいち　ぶ　まだうぶ
きたし　ちよ　ちく　ぶ年　孫ぬ
如房ふ　身き　ふ　ついてる　ちちの
いちと　ちて　ぶ　ぶん　ちされる
やうきひ　ちつ　ふ紙の　目の　ぶ　如
うだ　ちべる　ちぶ　ちぶん　ちぶ　ちぶ　ちぶ
いちが　ちて　ちぶ　ちぶ　ちぶ

さけ八年ごしめる法生酒ゑひ
こうせんいかいつけうしぐつてぶち
かけとりの小兵てい小たりし
二日のあめとり七人ふそうまる
うるはの法うく大敗ついて来る
ちりてぶふえんくをおしあそうく法
きぎんらくちるを河内のうしろのご
家のどくさかくるる日ちなで法はおのひ
すいぶんのかうちかがりて後ちいお

物ちゝ、ちんへ首をはりたくろ町
さでんゑもで酒代をはさちふし
河り御小ちくまるうさせる山新道
ゑ米さでゝ大ゑが落るうり
ふきがゝを市してちんちとだちでつき
ゝとハよゝかゝのちはでいうちひ
さちらんさ風山役かゝのもぐこし
悲いとのゝぬゝおいくぎふちりさや
計ちんをちんでふすゝぐくろ町

ぶ〳〵ときてくれおれて滅ぎうら
さんこう家でかんぞーとりの稼ぎり
そろ〳〵と切のもいのさんけてしきいてる
ぶら〳〵すぐでこ足ちゃ　出る
刃けかとぎすぬ　ーてるぶんべんん
ひのうい改中で　きゆ　紙　稼ぎり
することるとうべかゝ　ゆ　ぶー
死ぐるくんぐ　底ゝ　の　多かゝ
ふいぶのきゝ　ゝ　ゝ　ゝ



きゆうぶゝさんぐ　居ると　ちかぐみ
きいうんの　鬼　かゝ　老　ゝ　ふかる
切おゝ　中と　老が　ひのをひうせ
ひの海よぐりさんゝぜんゝ　ゝ　ゝが　長
三河うゝ　古　風る　者　と　ふ　ある
ろゝがいの　ちと　ゝ　わ　ゝ　ぶと　ゝ　存
万と　ふ　すぐ　て　筆　と　ゝ　ちゃら　せ
ぜんつゝ　ぶ　洗ゝ　ゝ　ト　が　ぬく　家　き
きいうんと　ぶぐ　ゝ　て　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]
[illegible]せいがぶくと赤るも　四ツ　えら
すきんふんみ見とれて居らとなりまる
[illegible]をいかつぎかつるひとくいあよと
[illegible]
根をなかひとはうんで　殿をちんかはる
[illegible]
[illegible]のかつてなる　[illegible]りるとつめるあり
[illegible]人のえつめかさ

大きなかはりけ金をもとまきく
[illegible]
[illegible]やかめいちのち
[illegible]かくしかるやかさ
[illegible]男をもぐけて居る
[illegible]おもをもぐこと
おへんみとかはとんやとかぢやよび
[illegible]
[illegible]
[illegible]

がんぐと如金のみくのさまでなき
ものとく屋敷のむく方へたりが出る
くらんのさげと引合イくらしがり
けるもあり居るもやはりていやなる
思ひしりけるさまぐ出つる
さんしんさらぶく嵩をかり
なるおんくしてお常がおあく人
下話とこをはどのらふいさいづら町
そあてかやしがちくと立ぬの身

かんぐと二三度かりてらふ
せつらぐそくれか洗ひおいて出る
毎ぬやくくで半紙ちよさふのも
おくの面あもとうぐもあらがく
日あかしかそくいはぐかたて居ら
自分ていてみくくと下安く宿
大二十日大ぐらくやとかたうんでる
十七年りくんぐ毎へ馬と
やけのんのなるいう鷹がてんく

やはりの唐へかへ二日やとしいれる
をんなとしをとこ弟ぎーとりとる
ものつぎそのひきいをとりの
家ぢうのえぼし下ぬぎやーとて
板がかしをのぶきをげ
後ろとハ分がうさらさぎうら
ろ食ーてんへすんに桶へとれらんる
ゆをーすでぢをとりぬしたそいを
ぬきるでもすきるもんぢ屋

ぬ年年ぬとうとうぢやぢんをもー
ふーぬんぢーナ一りんりーー人りぢ
生姿ハ姿をぬいて二日弟ぢ
ぬりとるかぬうしいくーいぬぢ
白いぬのをとりぢやるくーつーで
ひーがぬーとりで新ぢとりを拭へ
きつのを姿ぬりちるのとりへ寄る
面白のゆーりぬぢー弟二人
ぢーぬのるをーで四変をぢぬうる

かゝぢをく　廉とゝりもちる　一人を
いつるかせをうすでまるちつうしき
江の海へ　ゆくの　遠人　海まるかり
すゝ　ゝ　ゝやせんと　花ゐる　ぬくがし
もかゝ日ゝの　ひぶこと　ちゝさき　出海
法ゝ　ゝのそ　ゝかゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
変ゝ　ゝ　ゝ　少　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
法ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝれの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ぞく　方ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
すゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
杖　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いのせぜ[illegible]しいにぜんおぜんくい
ゑ一〻[illegible]ゆゑ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ん[illegible]石[illegible]げ
[illegible]ん[illegible]と泔[illegible]ふきん
おりてかゝれい[illegible]や下と[illegible]
いでちさもせん[illegible]ゆゑふ琴きを
[illegible]とだ[illegible]ふ[illegible]
いのゆ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ぜんか

ぜんとき金[illegible]
おぼ[illegible]でも[illegible]
こ舎め[illegible]
のりそのゆ砕さとりけ[illegible]
[illegible]のゆ[illegible]
[illegible]を入[illegible]
こゆ[illegible]
おし[illegible]
ちんゆ[illegible]

まちいとまをうけたまはりて
人目のうちんやうこんなそのひわり
いてきたるものとはでもかしこまり
さんぶでもりきたりさとぜりんさま
だてうちゆかんぢやうもせばぜひへ
其の一時とあるあるハおしを
中世て是をそれてちはを見ふ
ロ十日のあし
ゆくぶのえりハ引つめてきたれ礼

きたりさかれおいしくとおく九
下をあかりハ中でかやたむやう
おくさんのやうか大小ワしん時り
ぼくくやおうらぬうハ神のやんな
ぶきをきしぶ落おふ交を法つお渡
おりつけくきぬうとおきりくあち
大神ふなれハかれとだ甲ハた
ワしまる毎日おしぼ城おざ
おりよかをきをしんがいをう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりいらっしゃいまして
時は五月のなかばでございます
海岸の左右の
ほうとおぼえうつくしい
黄と赤づくんちゃくてかいのある
書生のいうこと風流の世界
かつてとのおーてをまいてる
ひっくん年ぬしとはなる
おいとのくさうんとるとおえー

海岸の方へ
まっしぐらに走る
場へ海がるとちょうど
ひとの同級をかいて
くるもの
かしまちくたびれて
ぶらぶら歩いてい
そくそくんの中へ
修正へ大きな時
海岸の

[illegible]
[illegible]
日ぬのだ[illegible]
かるでも[illegible]人別帳を長みもち
別紙もちろん[illegible]かるいかしさ
[illegible]ふ[illegible]中とまくじめる
[illegible]せいかいすとひ[illegible]てもつくまる
[illegible]ハ[illegible]山はと合とも[illegible]
どさやとも定て[illegible]奥とのもの[illegible]

[illegible]れ[illegible]
[illegible]
[illegible]の中ハ[illegible]が大ぐ[illegible]い
大[illegible]人はふとをかいて 並
ぶてゞせきそのさ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
の[illegible]
[illegible]金[illegible]
[illegible]

伊豆はくじめて五郎成二度ぶ年し
さだまりけるあのかつらぬまで　書
うげうしさとちらしでくのよりぶり
に入りてはるざりぶんをいつるさを
しちりくべくるかつぬのふ　二十はみ
光後あはきて今出くいけるやり
歟こいて夏の和へをありり
元しきらく今年まれとはんばせり
ぶくのかさ元しきへ稗おしゆる

そのありでいきそく世度笑かぢり
生蛙のあやかしにつるあばを
巻くかくくどきれどはかうとの
ぶちちしてもムかちゆかをとく巻
かけそでけちナこくかけ節
ちいそか紙を石をふぶのへをり
メ出しのゆかゆ鍋湯を紙て巻る
おのし　ゆ巻のふかうちと毋ぶんせば
ちちちかや出ちのとをを形　ちやる

横浜 芝丁目

きさしのとんびと称して白髪にて
大一番中て もらうと わあ人
もしらぬ ものもしらぬ ものもしらぬ
高人の ものをさがして 手ちをする
だいさ 武おしてくしする うちて
きむすて 出こてと 出こて 黒
ソ いりてこて はがりすし
はきしまを ぬ をでかてるく 大きいま
今日の ものをこて ものをさがし

年をとる おそてるされば
もしらぬ 人 解ハ 海のうち ぬ
おくぐ ばへ ばら 海ゆて えん 塔ける
門口で ちる ちゆ ちゆげと する 海 年
ゆいちゆ しかし ゆ 風へ おい 法 多 海
そ ただ ゆ すい くて えて まて
おかさ ハ ゆ ゆ れ ん な ゆ て
ゆ れ ゆ こ て ま ゆ く 海 ま ゆ
こて ゆ ば ゆ 姫ハ 二 ゆ る ま ゆ ん ば ま

げんごとくちをつぐみて居て、茶うと
ぶ四ちゃうを きっすもいんる
いっしゅ無四ちゃうしとるの色をとる
柳さんへ、これを持いるのうい者
先ちゃうはとうんでおべを四とよう
ゆうしゅうよの志んぶ者ぶ形が者ちゃ松
ちゃうがいりハ志んで花 ぶを ちゃう
ぶどいうえぶちゃ四ゆしゃゆ 二三人
ちんとくれしんでりゆいうぶ家四ちゃ形

花大ふ志んぶ四ゆ を入しよる
なぶくのくすちゃとちゃりのこヒで蓋
ちゃうよのぶこそうでお汁ハついで居
却れもちゃのまし者ちゃなふぶんのふ
面れのうちゆげ形ゆ者ぶを入ちゃるし
うい者ち 門義のうちゃ小形が者ぶ
三人ちゃかうれうめて金 初 くちゃり
金の形 ゆ 東 一の 目ゆき形ゆ
金ぶ者う 姫ちゃの入の志で入て 色り

世ゝ居とうしのくすてる城へ ゆき
うまこのもりはまのうらのからかうゝ
無いくさすじと淋しい浜道さま
のぼりさはおなさんしてすこ
たゝぐさハやうしですかべゝうし
かすがハきもくちいうるえびの浜
いんくもるとゆきんかくおろしゝ
ゆうぐぞ海がてくハあとゝちのさてつ
貴ゞをしてよゝ 墨の 世

るとゝくさもんぼさと城くるゝ
二日の、欲ゝ正出かゝ屋ちり
ゆくゝ川ゝ ゝも先きかゝてゝ
かゝ日の生姿ゝも悪しめて 移る
ゝ石かゝ一神 ゆけて人りすれ
新ゝもあゝんぼんゝ式まいつき
八十ゝゝゝ式ゝとゝゝゝたせき
かゝゝゝけ芸ゝゝで下世ゝゝ注
ゝいてゝんゝ形ゝゝお板とひゝへかて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

上下でまりをつくべとそゝのかされしあ
ねあるを名くしもうしろのゝぞはとまら
機車ぞうじさまをいかとおとうし
市でなんかあいしまるのなかをでもき
ちんしゆかぐをもんと笑と笑
いを法華二十余年とつゝ
物ゝはしをひ百歳はをひし
海ゝいかりをいぶかすゝ
子はこうかいなりすく

のしをもくいもたぐらんぬいせのは師
政むもハ云年見てもをひいなり
ぼうし針ちをあらをて屋ぐさて居ら
時んのおをまぐら後ちをいとをを
家氏の色と物ゝ法をて金如下
一年と太こさる奥と毒りのせ
出曲石をかをすをと師匠いひ
うくいすこもんあが出るとおそんこ
作の色の如形ぐう おをいかり

仲さま間ゑべしと成仕て居る
中ゞ汚けの、ふかどを拭へのせてゆゞ
りとさ無りと無しまとまん〳〵てかゝ為り
三角めゝ金のへるまを拭て出る
まんりべをとふり〳〵もせり 世間土
たゞいぼん さいかやけもおゝ 並
見せの せりゞ ゆかりもりとば
杉酒のかげ めしやかゆまをゆめ
出のたりまりよりまを無御のまりや

ら無門おかをわてまをゆおを
ゞまをゆゞと名代をどゆりゆら
をゆゆまをまれる経 如 文 ふ
かもつゞひかゝんさゆのりの間ゞゞゞ
めりゆいゆ石ハらんゞ 仲間ゆり
ゆゆをいゆゞゞんまゞゞきて居る
たゞゆ てゆのをゆかりゆり
ゆ近イゆつゝをゆをて 中 之
ゆゝるつゝゞ 所 花 ゆかゝを

出ばしてハ通りかゝり山寺
はゝ屋のもゝへ目切りとゝす者し
傘として者ゝ代すゝ者して生業ゝゝ
ふゝゝくのはかゝ岩女人二十人
とんはゝハとゝびとゝかゝてゝふゝる
如すゝ人孫兵衛と互かゝでゝゝとゝ泊
ゝゝゝ

ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人がうるさく袖へとまきたい
きたいのんが仏のゝぞどいてくれとおせいから
きこえないてなのきくめの屋ん下うち
わかやきゆーぐ所をそるかてうまる
おうこちらへおこやうを入れておなかをき
なかわくがぬきさとむうで細くしも
ホ　思ひ　ゆうこり小かもとかくらんち
喜ト　のせぬゆーかあまりそとくとち
ちりぢんいてこーらのうんとやはとぬき

ちん迷いが居ゆとめいどがはくくちち
ゆう へふちいちやだーさいが偏と ホ
ちゆとちんぶーけぶみずをかく
ちゆのせんざんがうちちちらぐ
人ちふく〜でそのかやすいもの
まだちのそでは〜の方〜
ちゆー でもちちん と系代ぬー
石人でおりて八ゐ〜は春と入し
京とくりてちりしハ春ホ〜ち

[illegible]て[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]
琴笛をとき[illegible]
[illegible]
[illegible]

卯正月吉例角力句合　　僅星蓮堂
　　薩秀堂

世界の松と要はれなしく　橘本連芦露
ちりのこと正こぐ　ひとせぬ　京の水　近江　蓮
おくい津　毒を伝ふ　ちり　蓮葉　玉扇
ちり　十八　八文字　でとぶかり　近江　たかし
一せちんめい　日本と書て　橘本　蓮葉
鶴の　忘ほう　で　ちゑ　伏見　清江
屋つぐ　ハ　ハ　金の　蓮葉　蓮
八郎　ハ　ハ　柳の　蓮

こ法のちんさう　ちいでか　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちゑ　せんちこと　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちゑ　のとぐ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
こ法　ちの　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちゑ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちの　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちの　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちの　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ちの　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

[illegible]

梅のもとにおりたちて[illegible]

万葉ごろのりっぱな[illegible]

ひとくぬ男が[illegible]

歌うたいうと[illegible]

さうるとそんびを[illegible]

[illegible]

節句[illegible]

[illegible]

[illegible]

大鉤をもてゞ門に居るかさもんの他、麥平
万竹は青一竹を表にかけ、表に紙拍
九りを毋らくふさんと大立て、ほらい、ゑ旅
ゑりえ小ぶりぬくもおと言ひ出さるる、清江
いとれぞる帆をを傳ひ、ちうれ、かさうさ西氏
毋ちんは小きひ情の初て子をさるを、也章
金札とそをうかむ、ちいさ石弟む、
おりいく、おぐ、長きおぐさりまるる、合旭
物本のうけでゐ位もうん弟を也さるを、也章

老人小赤漆家、ひぐ、ぎ、ぎ、ぎ、ぎ、清義
ふいさ言葉の日で毋い祇示さるを、黒蝶
大ひとといふと出るの加賀ひ、ぎ、ぎ、破琴
下ヶ浅で梅や桃の下と仏さるを、左備
すきんぐ、ひ、ん、ぎ、ぎ、四紀黒黄ひ、ぎ、ひ、琴
仮かぐり、ぐ、ア、ひ、ひこの音もせば、さるを、危的
拙軍といふ、清、四、隼人、ぐ、ア、ぐ、ぐ、鑑
清ひ、ぐ、毋のお松は、ひ、ぐ、ぬ、ぐ、ほ、ら、ぐ、盛
出るめ、ぐ、と、ぐ、ぐ、で、書牛つ、ひ、かさ、ぐ、さ、里丁

上下でどやしてしかりつけまいらせ、糸縒
ゆおあの沢庵のことを田いひさたさ、放矢
松坂の切りさて屋ざを加へしるなふさ、鍾
ちをふちをなどの歩行ふ、いろは、琴琴
濱川ちんかまくらとしたまれと宿、いろは、琴琴
家が行くくるくていは枝てさかりに解つぢさ、和美
ちう無沢沢ぐんどうとりなぶれう山あり、木綿
猫の助一入さへせれと九春いてまりいろ石斧
吹こうるものでぜとばそれぞれ小金てまる小金塚、井泉
さんちちく書うの白市と墓て都し芋汁、浪浪
加茂古墓、重氏きりをまれさまく浪浪



○俳諧風書品目録　江都上野山王之傍　花屋蔦次郎

俳風柳樽拾遺十冊　川柳点句洞開代多
四季恵都万年暦俳諧年鑑作者録

同川傍柳　吉川柳点　同　中ちの篇　吉川柳点　二冊

同柳句種蒔合連　編篇　二編綱部　江戸吉原柳句類点者
柳句著者

黄表

同　黄表　同　百人一首　雅号寄　雅号百人一首

俳諧　[illegible]　四季恵都万年暦　[illegible]